

ユニークベニユーの観点から見た世界文化遺産の 活用可能性と課題

～姫路城と元離宮二条城を事例に～

環境人間学研究科 都市計画研究室

◎M1 きた り お の 北 梨緒乃、特任助教 きしもと けいだい 岸本 慧大、教授 お お た なおたか 太田 尚孝

キーワード

世界文化遺産，ユニークベニユー，文化財，姫路城，
元離宮二条城



研究概要

近年、文化財の保存と活用が盛んに議論されている。文化財維持のための財源確保・人材確保が課題となっており、2019年の文化財保護法の改正から文化財の活用により一層力を入れている。一方で、行き過ぎた活用による価値の喪失や観光公害のリスクもあり、文化財の保存と活用のバランスは十分に検討されなければならない。そのような中、2010年代よりヨーロッパ発祥の概念であるユニークベニユー（特別感・地域特性を演出することを目的とし、会議・レセプション・イベント等本来の用途とは異なるニーズに応じて特別に貸し出される会場のこと。以下 UV）に関する政策が文化庁・観光庁より次々と打ち出され、各自治体でも文化財の UV 活用を意識しだしており、文化財の活用の幅の広がりを見せている。しかし、UV という概念自体が日本では新しく、いまだ知名度も低い状況にあり、十分に研究がなされていない。

本研究では世界的にも価値を認められ、他の文化財のモデルケースとなりうる世界文化遺産を研究対象とする。特に UV としての活用施策が打ち出されている姫路城、元離宮二条城を事例として取り扱い、UV の観点から世界文化遺産の活用の可能性と課題を示す。結果、どちらも規模は異なるが、文化財の関係者、観光推進の関係者、利用者等立場の異なる者で話し合い、価値の損失が起こらない活用を実現していた。

表: 姫路城と二条城のUV施策内容と実施状況

	姫路城(姫路市)	元離宮二条城(京都市)
UV施策名	「ユニークベニユーHIMEJIプラン」	「二条城MICEプラン」
開始時期	2018年～	2013年～
実施件数	5件(2025年3月時点)	63件(2025年7月時点)
施策内容	姫路城をメインとして、周辺施設も数か所UVとして利用を可能とする施策	二条城内のUV利用を可能とする施策 (他の施設のUVは「京都ユニークベニユーガイド」にてまとめられており、二条城も含まれる)

出典: 各プラン、関係者ヒアリングより筆者作成

アピール ポイント

上記から、文化財のユニークベニユー活用において保存と活用のバランスは文化財によって異なり、決める際には関係者での十分な話し合いが必要なことが分かった。今後増えるであろう日本内の文化財 UV の活用方針を決めるのに役に立つ見解だと考える。

都市計画報告集 24 巻への論文投稿、2025 年度日本造園学会関西支部大会での口頭発表と支部賞受賞、実践政策学 12 巻への論文投稿と、本研究の内容を含めた研究発表を計三回行っている。